

2019年度受賞者
受賞おめでとうございます。(敬称略)

秋叙勲受章 (瑞宝双光章)	小川 清
公衆衛生事業功労者知事表彰	大森 正司
〃	矢崎 一郎
〃	平野 雅弥

叙勲「瑞宝双光章」を受賞して

小川 清

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員の皆さまにおかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、令和元年秋の叙勲において、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の推薦により瑞宝双光章の栄に浴することができました。これもひとえに永年にわたり歴代会長をはじめ、多くの先輩また同僚そして会員の皆さまに支えられた賜物と改めて深く感謝申し上げます。

令和元年11月5日、埼玉県知事公館において勲記・勲章の伝達式、そして12月13日皇居内において、天皇陛下の拝賜を賜り、身の引き締まる思いで拝謁式に出席してまいりました。

振り返りますと、「天の時」としてCTやMRIそしてDRなど、次々と新しい技術が開発され、診療放射線技師として、その人生の大半を、新しい技術に係わってきたことは幸せでした。忙しかった中に業務の工夫と幾ばかりの改善は、自分ばかりではなく周りを巻き込みながらできましたこと感謝です。「地の利」として埼玉で生まれ埼玉で育ち、埼玉で働き、埼玉で家庭をもてたこと感謝です。「人の和」としては、その時代時代に、その組織団体に、人の和ができ、その輪に加わられたこと感謝です。

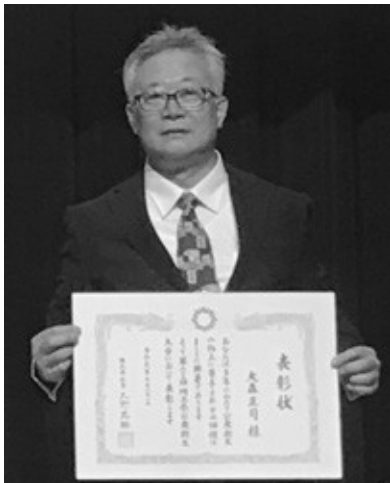
今後もこの榮譽に恥じることはないように一層精進し、これからは、皆さまから受けた恩を少しでもお返しできるように人生を歩んでまいりたいと思っておりますので、なお一層の御指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

末筆ながら、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のますますの発展と会員お一人お一人の御健勝と御多幸を心よりお祈りし、御報告とお礼の挨拶とさせていただきます。



埼玉県知事表彰を受賞して

さいたま赤十字病院
大森 正司



公益社団法人埼玉県診療放射線技師会推薦により、令和元年10月21日（月）浦和の埼玉会館で行われた『第63回埼玉県公衆衛生大会』にて公衆衛生功労知事賞をいただきました。

受賞内容には、多年にわたる埼玉県における公衆衛生の向上に寄与された功績により公衆衛生事業功労者として表彰とありました。つまり自分の場合は、診療放射線技師として埼玉県診療放射線技師会や埼玉消化管研究会、胃X線を楽しく学ぶ会などの指導員として後輩技師の育成や消化器がん検診の精度向上に貢献したということでしょうか。しかし、自分自身はいろいろな研究会活動、技師会活動を通しさまざまな人と出会いそして数多くの経験をさせていただきました。そのさまざまな環境下で生まれた信頼関係や経験がスキルとなり自分の

成長につながったと思います。その中で、自分では気づかなかった長所を評価して信頼して推薦して下さった表彰委員の皆さま、田中会長に御礼申し上げます。

このような名誉ある表彰をいただき、家族ともども喜んでおります。自分の人格形成は、病院組織による教育はもとより埼玉県診療放射線技師会の諸先輩方から教えていただくことが多く診療放射線技師の礎を築くことができました。またそこで知り合った experts の人々が今の自分の財産だと思っています。田中会長にご指導いただいた際に、『大森さん、出る杭は打たれるけど出過ぎた杭は打たれないんだよ』との言葉をいただきました。ローテーションを殆どしてない自分にとって偏った知識ではあるが消化管の expert になろうと決意し、今では自分の座右の銘として心に刻んでおります。今後も技師会会員の皆さまのお力になればと思っております。

受賞にあたり、家庭を守り背中を押してくれた妻、ご指導頂いた尾形技師長とさいたま赤十字病院放射線科スタッフのご協力とご理解に大変感謝しています。

埼玉県知事表彰 公衆衛生事業功労者を受賞して

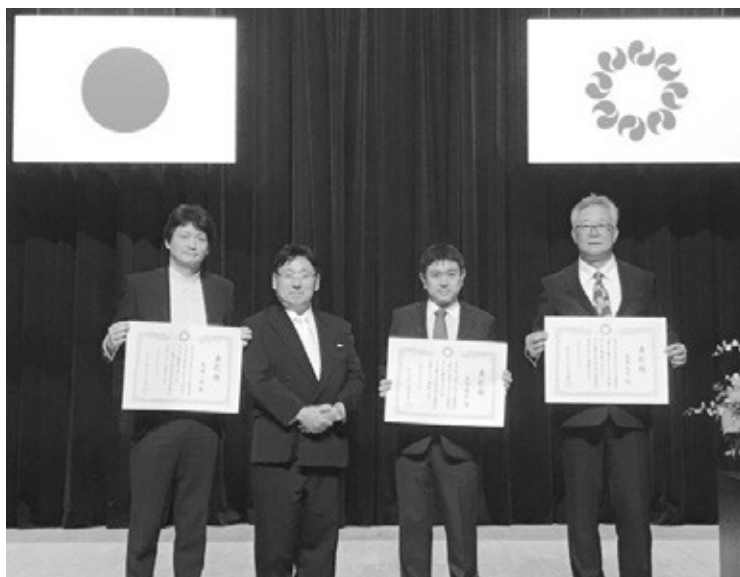
春日部市立医療センター
矢崎 一郎

第63回埼玉県公衆衛生大会にて埼玉県知事表彰公衆衛生事業功労者を受賞しました。のんびり診療放射線技師をやってきた私が表彰を受けることになるとは思ってもみませんでした。こんな私を推薦してくれた皆さま、私を支えてくれているすべての皆さまにお礼申し上げます。また、私を自由に動けるようにしてくれている春日部市立医療センターの放射線科の皆さま、私の診療放射線技師としての礎を作ってくれた故 土屋 幸雄 氏に感謝致します。

この頃、わたし自身を取り巻く環境が色々な所で大きく変化しているのを感じています。(私は変わるつもりはないのですが…少しは変わりなさいと色々な方に怒られます。)スポーツのことは頭になく走り回っていたころに戻りたい自分がある反面、現在のこの状況を楽しんで?いる自分があると思うと、その時々で過ごしている環境と時間が今の私を作ってきているのだとつくづく感じます。そして、いま私が置かれている環境は全ての面において、とても恵まれていると感謝する次第です。

おいしいものとお酒に囲まれて、少し出てきたおなかを隣で見ている娘が『この腹何とかしなさいよ!!』とつついてきます。何とかしなければとおもいつつ、多分このままが幸せなんだと感じている私があります。(いつも支えてくれている家族には…感謝しかありません)

だらだらと訳のわからない事をつづっておりますが私は自分と関わっている皆さまと出会えてとても幸運であり、これからも皆さまと関わりあっていけるのを心うれしく思っています。なにかと面倒な私ではありますが皆さまに迷惑をかけてまわりながらこれからも楽しく過ごしていきたいと思えます。もう少しの間、お付き合いをいただけると嬉しく思います。今回の受賞ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。



公衆衛生事業功労者知事表彰を受賞して

埼玉医科大学病院
平野 雅弥

令和元年10月21日埼玉会館で開催された第63回埼玉県公衆衛生大会において、埼玉県診療放射線技師会推薦により、埼玉県知事表彰を受賞させていただきました。田中会長をはじめ歴代の埼玉県診療放射線技師会の関係者の方々に感謝を申し上げます。

表彰式が行われた埼玉会館は、理事時代に定期総会などでよく利用していた場所なので思い出深い会場でもありました。

私は、平成2年に城西医療技術専門学校（現：日本医療科学大学）卒業後、埼玉医科大学附属病院（現：埼玉医科大学病院）に就職し現在も勤めていますが、もう30年も時が経ったのかなという感じがします。入職当時の仕事環境を振り返ってみると、電話はダイヤル式黒電話で、毎朝、鉛マーカーで日付を作成し（11月11日は「1」のマーカーが足りず困ったものです）、血管造影もパンチカードでプログラム設定、暗室でフィルム交換・現像作業をして、業務終了時には毎日数台の自動現像機ローラーをゴシゴシ掃除していました。こうして懐かしく思い起こしてみると、現在のモニタとマウスとキーボードに囲まれている職場変化は、30年という時代の流れも納得できるような気がします。入職以来ずっと大学病院勤務ということで、さまざまなモダリティにおいて装置の変遷を経験させていただき、また、途中3年間の社会福祉法人毛呂病院（現：社会福祉法人埼玉医療福祉会丸木記念福祉メディカルセンター）出向中は地域の方々とのイベントなども経験させていただきました。これまで、ずっとやってこられたのも、今までの先輩・同僚・後輩など職場の全ての方々のおかげだと思っています。

技師会活動では、平成5年10月に越谷市の県民健康福祉村で行われた「埼玉ヘルシーウォーク」内で、他の施設の方々と一緒に「あなたのための放射線展」を初めてお手伝いさせていただいた時のことは今でも深く印象に残っています。また、平成19年～平成29年まで約10年間、理事や委員を務めさせていただき、その中での事業活動や他施設との交流を通じて得たものは非常に大きかったと思います。

今回表彰をいただいたことに恥じぬよう、これからも日々精進してまいりたいと思いますので今後ともよろしくお願い致します。



ご寄付お礼

ありがとうございました。

前 深谷赤十字病院 放射線診断・治療科部 放射線技師長

元 社団法人埼玉県放射線技師会 常務理事

清水 文孝 会員より、10万円のご寄付をいただきました。

厚くお礼を申し上げます。

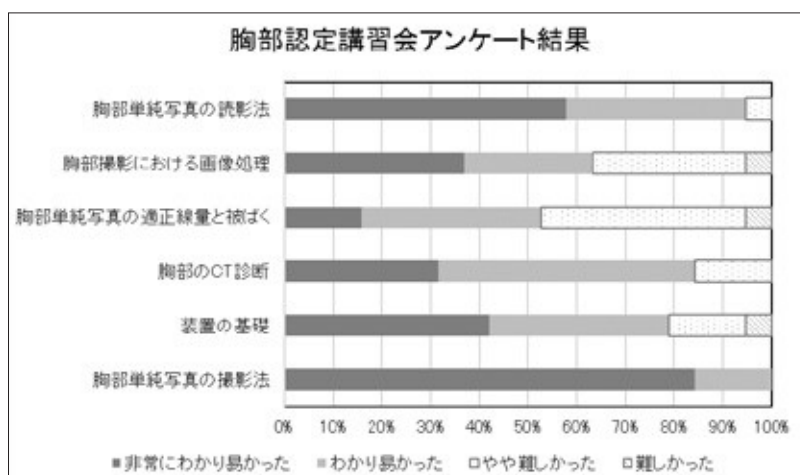
第18回 胸部認定講習会 開催報告

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
学術委員 土田拓治

第18回胸部認定講習会が11月24日（日）に済生会川口総合病院にて開催され、参加者は19人であった。本講習会は、胸部撮影の基礎から解剖・臨床まで幅広い内容で構成されており、受講者の皆さまより大変分かりやすいとの評価をいただいた。特に、臨床業務に直結する講義に関しては高い満足感を得られたようである。また、被ばくに関する機器の基礎・管理および被ばく線量の適正化についての講義に関しては、若干苦手意識があるようであったが、来年度より医療法施行規則の一部改正に伴い医療被ばく管理が義務化され、われわれ診療放射線技師にとっては、必要不可欠な知識なので、次回もより分かりやすく満足度の高い講習会を開催していきたい。ぜひ、多くの方の受講をお待ちしております。

本セミナーの開催にあたり、施設設備の借用を快諾していただいた済生会川口総合病院の佐藤病院長、講師・スタッフすべての関係者各位に紙面をお借りし深くお礼申し上げます。

講義内容と講師およびアンケート結果は、以下の通りです。（敬称略）



プログラム

1. 胸部単純写真の撮影法：滝口 泰徳（上尾中央総合病院）
2. 装置の基礎：土田 拓治（済生会川口総合病院）
3. 胸部のCT診断：染野 智弘（羽生総合病院）
4. 胸部単純撮影の適正線量と被ばく：戸澤 僚太（済生会川口総合病院）
5. 胸部撮影における画像処理について：浅野 省二（富士フィルムメディカル）
6. 胸部単純写真に読影法：佐々木 健（上尾中央総合病院）



業務拡大に伴う統一講習会 北関東地域（埼玉県）開催報告

総務理事 城處 洋輔

公益社団法人日本診療放射線技師会の主催とする業務拡大に伴う統一講習会が、以下の日程において開催された。講義および実習を通じて業務拡大に伴う必要な知識や技能の習得、またはそのきっかけになった事と思われる。受講生の皆さま、また実習を担当された指導者や会場スタッフの皆さまにはこの場をお借りしてご御礼申し上げます。

埼玉県開催 第14回 日程：2019年9月28日（土）、29日（日）
 場所：さいたま赤十字病院2階多目的ホール
 参加者：63人

プログラム

<1日目>

9:00～9:50 講義(DVD放映)静脈注射関係
 9:50～10:40 講義(DVD放映)静脈注射関係
 10:50～11:40 講義(DVD放映)静脈注射関係
 11:50～13:10 実習・演習 静脈注射
 14:00～14:50 講義(DVD放映)法改正
 14:50～15:40 講義(DVD放映)IGRT
 15:50～16:40 講義(DVD放映)IGRT
 16:40～17:30 講義(DVD放映)IGRT
 17:40～18:40 実習・演習 BLS

<2日目>

9:00～9:50 講義(DVD放映)下部消化管
 9:50～10:40 講義(DVD放映)下部消化管
 10:50～11:40 講義(DVD放映)下部消化管
 11:40～12:30 講義(DVD放映)下部消化管
 13:20～14:10 実習・演習 下部消化管
 14:20～15:10 実習・演習 IGRT
 15:20～16:10 試験説明および確認試験



法改正講義



BLS実習



静脈注射関係実習



下部消化管実習

統一講習会に参加して

埼玉県診療放射線技師会 副会長
済生会川口総合病院 放射線技術科 科長 富田博信

「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための法律の整備に関する法律案」(医療・介護制度改正の一括法案)が、第186回通常国会において平成26年6月18日に成立し、6月25日に公布された。この一括法案の中には、医療従事者の業務範囲および業務の実施体制の見直しとして「診療放射線技師法」も含まれ、診療放射線技師法第24条第2項の(2)についての改正があった。具体的には、造影剤の血管内投与に関する業務として、①造影剤自動注入器を用いた造影剤投与を行うこと。②造影剤投与終了後の静脈路の抜針及び止血を行うこと。また、下部消化管検査に関する業務として、③下部消化管検査に際してカテーテル挿入部(肛門)を確認の上、肛門よりカテーテルを挿入し、肛門より挿入したカテーテルより、造影剤及び空気の注入を行うこと。画像誘導放射線治療(image-guided radiotherapy: IGRT)に関する業務として、④画像誘導放射線治療に際して、カテーテル挿入部(肛門)を確認の上、肛門よりカテーテルを挿入し、肛門より挿入したカテーテルより、空気の吸引を行うこと。などが追加された。厚労省からは、1)関係法令・通知などを改正し、検査等関連行為を安全かつ適切に行うために必要な教育内容を現行の教育内容に配慮しつつ追加する必要がある。2)既に診療放射線技師の資格を取得しているものについて、医療現場において検査等関連行為を実施する際には、医療機関や職能団体等が実施する教育・研修を受けるよう促すことで教育内容を担保する必要がある。との見解がなされ、本講習会開催となっている。

当院ではこれを受け、院内「医師・看護師業務低減委員会」へ診療放射線技師の業務拡大内容を提示、説明したところわれわれの業務負担を評価し、本講習会受講費用は全額病院負担になっており当院診療放射線技師は全員受講を義務化した。

講習を受けて講義内容は、分かりやすく法令を加味し、充実した内容となっており、また実習では、的確に熟練した講師からの丁寧な解説、サポートがあり、楽しく受講できた。また講師それぞれの気持ちが受講生に大いに伝わり、心地の良い講習会であった。

本講習会は、2日間に渡り開催され、今回を含め県内では14回の開催を数え、特に講師の先生方には、本事業に賛同していただき、多大なご尽力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

さいごに、今後はJARTの事業に集約されるようであるが、法改正後、まだ未受講の会員は、ぜひ本講習会受講をご検討願いたい。



統一講習会 埼玉県講師陣